

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イノアック桜井事業所開発棟	階数	地上3階
建設地	愛知県安城市藤井町東長先3番地2、野寺町宝殿89番地6 他12筆	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	174 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,800 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年4月13日
敷地面積	3,304 m ²	作成者	長尾 昂
建築面積	1,268 m ²	確認日	2023年4月17日
延床面積	2,918 m ²	確認者	舟橋 正羅



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

環境品質 C (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	67%
③上記+②以外の	92	67%
④上記+	138	67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (スコア=3.0)

音環境	2.8
温熱環境	2.7
光・視環境	3.0
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能 (スコア=2.9)

機能性	2.7
耐用性	3.0
対応性	3.1

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア=2.2)

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (スコア=4.4)

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア=3.0)

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (スコア=3.4)

地球温暖化	4.3
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
イノアック桜井事業所開発棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									2.7	
Q1 室内環境									3.0	
1 音環境									2.8	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									0.4	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									2.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
2 温熱環境									2.7	
2.1 室温制御									0.5	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									4.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									1.0	
3 光・視環境									0.2	
3.1 昼光利用									0.3	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									0.3	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									3.5	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									5.0	
4.2 換気									0.3	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									0.2	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									5.0	
Q2 サービス性能									2.9	
1 機能性									2.7	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									0.4	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									4.0	
2 耐用性・信頼性									3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			0.3	3.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高=4,200mm	-	4.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.7
LR1 エネルギー					0.40				4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.7	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		太陽光	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.54	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマや節水型器具を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.3	0.33	-	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制		独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10
② 資源の有効活用			3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 イノアック桜井事業所開発棟

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 工場・事務所・物販店の動線に配慮した配置計画とした。また、高断熱の外装、高効率の省エネ機器を採用しZEB Readyの取得を目指す建物としている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性の高い断熱材やLow-E複層ガラスを採用し、空調負荷に配慮した。また、主要居室は自然通風・自然採光に配慮し計画した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 維持管理が容易な内外装材を選定とした。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺の工場に調和する外観デザインとした。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 太陽光を利用した設備計画とした。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマの利用、ODP=0の冷媒利用の計画とした。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 標準的な仕様としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。